

保健だより



耳鼻科検診のお知らせ

日 時：5月30日（木）13:10～
場 所：保健室
学校医：佐藤耳鼻咽喉科 佐藤信清先生

< 順番 >

1GH→1A→1B→1C

※検診はとても早く進みます。

耳鼻科検診の受け方

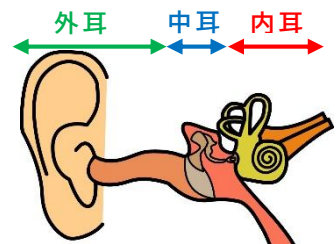


注意すること

- ・前日に、鼻や耳のそうじをしておきましょう。
- ・髪の毛が耳にかからないように、髪の毛の長い人はゴムで結んでおきましょう。
- ・お医者さんや看護師さんにあいさつをしましょう。
- ・「耳鼻科検診結果のお知らせ」の用紙をもらったら、必ずおうちの方に渡しましょう。

乗り物酔いと耳との関係

乗り物酔いには耳、目、脳などが関係しています。乗り物酔いは「動揺病」とも呼ばれ、車やバス、電車、船などの乗り物の揺れ、不規則な加速・減速の繰り返しを受ける**内耳**（三半規管や耳石器）からの情報と、それとは異なる情報を目や体から受けた脳が混乱することによって起こると考えられています。



三半規管（さんはんきかん）		耳石器（じせきき）	
	頭が回転するときの方向と速さを感じます。平衡感覚を保ち、体のバランスを取るための役割をつかさどります。		平衡石と呼ばれる炭酸カルシウムの結晶が入っており、この動きによって体の直線方向の動きを感じます。

三半規管と耳石器でとらえられた体の位置・揺れやスピードなどの情報は脳へと伝えられますが、乗り物による不規則な加速・減速、発車や停車の繰り返し、右折・左折や曲がりくねった道などによる前後左右上下の揺れなどが過度に生じると、脳への情報量が過剰になったり、耳がとらえた情報と実際に目から入る情報とにズレが生じたりすることになります。すると、脳が情報を処理しきれなくなり、心臓や血管などの循環器や胃・腸などの消化器をコントロールしている自律神経の働きが乱れることで、冷や汗や胃の不快感を始め、さまざまな乗り物酔いの症状を招きます。

